

前回の総合教育会議における「大綱素案」についての意見

協議テーマ①『「チーム学校」としての組織体制の在り方』に係る大綱素案

◎ 子どもに関わる全ての人^アが連携・協働して、個に応じたきめ細かな教育を推進します。

各学校において教員が子どもと向き合う時間を確保し、個に応じたきめ細かな指導を行うため、専門性を持ったスタッフや校区内の地域の人々が子どもへの様々な支援を行うなど、子どもに関わる全ての人^アが連携・協働して、一人一人の学びを支える「ひろしま型チーム学校」としての体制を構築します。

協議テーマ②「意欲のある全ての者への学習機会の確保」に係る大綱素案

◎ 生涯にわたり、学ぶ意欲のある全ての人に学習機会を提供するよう、充実した学習環境の整備を推進します。

幼児教育段階では人間形成のしっかりした土台を築き、義務教育段階では知・徳・体の基礎・基本を確実に身に付け、その上に立って、高等学校教育段階では個性を最大限に生かし、専門的な能力を伸ばす必要があります。

各教育段階の連携・接続などに配慮した上で、一人一人の意欲やニーズに応じて、生涯にわたり「学び続け」や「学び直し」ができるよう、学習環境の充実に取り組みます。

協議テーマ③「公立・私立間の役割分担」に係る大綱素案

◎ 少子化やグローバル化などの時代の変化を見据え、公立・私立それぞれが、将来の理想と課題を共有しながら、教育の質・量の両面において、特性に応じ、役割を分担していきます。

幼児教育については、幼稚園・保育園・認定こども園等の連携・協働を重視しつつ、また、公立・私立の幼児数の差に配慮の上、それぞれにおいて、教育・保育水準の向上や受入体制の充実等が図られるように取り組みます。

義務教育については、大多数の児童生徒を公立が受け持っている現状に鑑み、引き続き公立において、教育内容等の面で充実強化を図るための検討を先導します。

高等学校教育については、グローバル化への対応をはじめ、公立・私立それぞれの特性を生かした多様な教育を提供しつつ、将来の生徒数の減少を見据え、中・長期的な視点から、公立・私立における受入体制の在り方の検討を進めます。

さらに、生涯を通じての教育環境を整備するに当たり、学校教育の補完的な機能を有する学習塾などについても、その分担している役割をより実効性あるものとするため、学校・地域・家庭との関わり方の検討を進めます。

前回の発言概要

a 協議テーマ①『「チーム学校」としての組織体制の在り方』に係る大綱素案について	
ア	「チーム学校」が大綱に明記される理由・根拠を、「本市の目指す教育の方向性・教育方針」の言葉に繋げ、分かりやすくすることが大事である。
イ	「ひろしま型チーム学校」は、学校内だけではなく、子どもに関わる校区内の全ての人 ^ア が連携・協働することであり、着実に進める必要がある。
ウ	小学校・中学校以外でも基礎・基本を学べることは非常に大事であるため、地域の専門家などにも加わってもらい、放課後児童クラブを包括的に含めれば、非常に面白い「ひろしま型」ができる。
エ	「チーム学校」が補完的な印象が強い文章となっているため、「学びを支える」を「学びを進める」などとし、ポジティブな感じを出した方がよい。
オ	「個に応じたきめ細かな教育」を「個に応じたきめ細かな質の高い教育」とすることで、広島らしい教育と連動する。
カ	家庭は、教育の一番の担い手であり、チーム学校の最初を担う必要があるため、「全ての人」を「家庭・地域・学校など全ての人」としてはどうか。
キ	『「チーム学校」を取り巻く街』という視点を付加し、「チーム学校」が拠点となり、街全体で子どもを育む視点が入るとよい。
ク	「ひろしま型チーム学校」については、「平和」、「国際」、「文化スポーツ」、「徹底した基礎基本」、「伝統」、「絆」など、補足の文言があるとよい。
ケ	「校区内」とあるが、小・中連携について言及できれば、地域が広がる。
b 協議テーマ②「意欲のある全ての者への学習機会の確保」に係る大綱素案について	
コ	本人の能力や実力に関係なく、他律的な要因で、格差が固定していくことを、是正する仕掛けが必要である。
サ	一人一人を大切にし、学習を通じて、能力や社会参加の可能性を高める中でチャンスを増やし、人生を楽しめる環境を公的な仕掛けの中で作る必要がある。
シ	「環境の整備を推進する」ことで、結果として何がかわるのが分からないため、目的を入れた方がよい。
ス	ニーズが、経済的なことや教育的な配慮であることが分かるようにした方がよい。
セ	高等学校教育の部分が、「個性を最大限に生かし、専門的な能力を伸ばす」だけのように見えるため、文言を加えた方がよい。
ソ	「生涯にわたり学ぶ意欲のある全ての人」を一般市民で考えたときに、生涯学習の方にも言い及ぶことができるとよい。
c 協議テーマ③「公立・私立間の役割分担」に係る大綱素案について	
タ	役割を分担することが目的のように書かれていることは、抵抗がある。
チ	目的はあくまでも充実した教育をするための一つの手段であるが、最初の文章は、目的と手段がひっくり返っている。
ツ	「役割を分担する」ことで、結果として何がかわるのが分からないため、目的を入れた方がよい。
テ	大綱の趣旨として、公立・私立それぞれが特別のプログラムを持ち、多様なニーズに応えられる教育機会を提供することが、個性を生かし、自立できる生き方を保障することに繋がることを明記した方がよい。
ト	貧困対策や特別支援など、公教育の使命に基づいた役割分担というものを、打ち出してもいいのではないか。
ナ	質・量の両面と言いつつも、全体的に量的な面の書きぶりが目立つため、学力の質の転換など、質的なことについても入れた方がよい。
ニ	子どもを取り巻く全ての教育に関わる人達が、子ども全体の教育を考えようということであるため、「学習塾」という言葉ではなく、「教育関係塾」などとした方が誤解を生じない。
ヌ	塾こそ、正に格差社会の一つの象徴のようなものである。学校に行くだけで全てのことが満たされるようにしなければならない。
ネ	塾には、学校の補完的な役割を担ってもらいながら、塾に通う子どもが地域づくりに参画できるような支援をしてもらいたい。
ノ	塾や放課後児童クラブなどを含めて、学校・家庭・地域との関わり方を検討し、話し合う時期に来ている。
d その他	
ハ	大綱で方向性や大きな流れを書き、各施策や個別の対策は別途議論する仕掛けとしたい。
ヒ	一人一人を大切にし、まちも大切に。そういう個と全体の大切さのバランスをとりながら、人間が育ついいまちであることを言いたい。
フ	大綱が何を目的としたものかを分かるようにする必要がある。
ヘ	大綱の背景を、前文等に丁寧に書くことにより、理解が深まり、協力してもらうことにも繋がる。
ホ	どういった教育を行い、教育の結果、どのような人を育てていくのかという部分を、理念的な部分と繋げた方が分かりやすい。
マ	「本市の目指す教育の方向性」を、もう少し丁寧に説明した方がよい。
ミ	全体として施策的な言葉が多く、将来の人物像が非常に見えにくいいため、夢が膨らむような、イメージ豊かな文言が必要である。また、そういうイメージや教育理念が、大綱全体に流れるとともに、前段にも必要である。
ム	家庭の役割がいかに大事であるかを伝え、家庭に対して協力を求めることを明記した方がよい。
メ	外国人や特別支援学校に通う生徒、LGBTなど、多様性に対するマネジメントを、公教育も視点として持つ必要がある。
モ	最終的な教育の目標は、自立して生き抜いていく力をつけることである。
ヤ	テーマ①～③の大綱素案の文章量を同等にして、同じように大事にしていることを明確にした方がよい。